



部のもつとういしきとういうし けらのを配していまりている以称語する はるというははのとからいるといった るうう けいる後中以いないとはるましてい てもいう時かりのつるないかっちんど せられむのいとうつろ 人は何とうりした人をあるるる とろなほうしいはられしまうからい な連る一いるがしのいてらし、神語は ないとそないとしいしてもられる りくなかっといかるといつひょうかっと ひとうもしつむし りのジャク 事でい同い自然之 中からるい 是 辨二

るるいなそかくろうろういかいの 授える経序为ははますという除不 行きいとすりしてんねいるい角がらかい 中はくりなりいいねりゅうろか なっているないとうなからいってるくって 四名とうのいとかなりていて子知以 てこれの所が、まなしから言とうえ いいしばんじこんでははままう いからもかられていれるがない してそうかのうのかしられたって してかつをないなりそのと ないくうきちゃ

ı

んの形ろびっと 香水之生、馬吃 あっと度がむて 3019 火草生 ひないけば でかいいるからい 维~~ 大れ 海がいい 市路里 らるべん L か麿 的

日本となってりたっきないい かんためら 日日となるちゅうち てからるますっちょうない 七に春り いかろい場り 市へ磨りしまし いているいいのろは うてのおか 口をそのとすの とまってもいろうない 一ろりかかって上ケ 胡 2 おくる かかり 言水 ws m3 m3

なるろろいりのうといういろ たなと前二十~も をの 161人とうわらなり神楽時 る量しそのを変が 早業し一種の食がゆりれ 五供らてろろうかとかてまて 格一りは一町打出るれ りっきっとめらかなり りからくわといなくやひしろん 如とからないのやらい 白製乃声小散心管 亲正 吉吃% 当

しっかいってものしろう おばないもろりれ きなはてしるれいちほしきなりん ゆうき事かりひ のける 島吉

心門 られてもしばて知りる 素をし 大和りはすすいとなり 高的 专国主部人名国教 は世の産りといううる 持つとけららからてあれること いんいるのけれる西九賣 とうしきけるともにないま なるかられいのやりる 荷をいめびのし いていい かしているれらつかつき うちのないる中かなって しるのはとろれず 以いるのなー かいなん 人名次び秋の川 けるしゃしこ しまってゼル 艺 苦 吃る苦吉 吉吉 M3 W3 43 吉吉

い事が続いてう

シニョの日のそう たかかしないろうかへんあさ たるが同のは 之味像の方法-なり気い 人一きなー一葉の口うら 夷弱のなべくかんれ 田中一多於京の四五七 なっとの主動ははうろうか でいいるなとないるこれ 母はでいるとうす かんのんまなかけっとなった ならってい をこかすがく よいかけといります いしけんが盗うるのかま 03 205 装里 ね様 公女 15 堂 接 3 I 吉奶 古 吉 13 ws

ふまとむれる松はってと 里面沙巴! あとなるあるするはのな あるのれるれた 雨方がわるていいできれる な者、とうがおねり 行人と日小的 る人の目なるだ なとなるにを1 いっていまっているるいうちて 北て行人なう あのたとその のゆいかくりょう 有名常やもか 常小心ツ られ 四里 いのて かり おかに MS T \* 里基堂 吸提里吸堂 w5 0 尚

てえいよういとるのをはら

いれていのやしかさ

ず 团 5**2** 8 ス 妆 小假見宮 (5 3 るしおいい 3 松田 b いろうん 湖 スち WS h やらやる P

いいとあるまたるかれらいいと (i) をいくのうとうしゃすり 能人 玄井はあふらの以信を 平者びず のいりをか ねの かるやろあれし いないをるるよう 由小文化思異清呼出 \$ くんいそのきしから いるのののないり 你小松 公龙 ろうしてのかっけ 自の 三きんりつう れいる 台 b B め粉 すね 忽隸 おい 奏 隸 隸

いいいい 兄をいかんなみななすり 田村の宮のはかく 重慮からたくいるからろうう とわの前り みらけるので のるの乳 古大し 机 东局 ある一電小帆五具 そうるするろろい 短板の月 きないか 村気の気 いる古代 も一切で数 富定 35 R 杨 隸

なるなるするとのね るる人とま

諫宋諫为吗

军

棚の粉 聖子の玄 そうな てれのか えうやう その使ん 難びつばまり せのうるい をるの形 罗旦小厅 なはを磨かのち あのう 石陽正見之 ΝŽ と多るや むのか 级 军禽 高 隸 W3 徐

榆 (V 私之盾以下 なりまの 名の水在のスパイ が以秋四のい高質 るんの夜 神の ちの意味 ノハきのむ 松

多いなるいかいませのブイー るまろうかいろろ れか ろうだちゃ 首的の神 日生るかり いるの人物行名面多次 は思しふて てめる いろうとゆれるもらいろう さってはて ふねより めるめか 物の していてくるしのり ちんめいる年でから なかり 日のよう することの句 すびてないけ うからつき 多小孩好 らなる人 る相等 3\$

孟冬之日歌藤公一两軍訪和田寺 於是忽情賴動作五言心志

府是小春天 佳院見仁賢 步行寄和 庭中残氣哭

因仍完生偶入和田之首舍有住作与 不多而维無由次芳隸無目依張明 珠之語敢着其高韻

吐出新詩歌一天 文林学習年浅仁田

和如風育與以首 あれてしれらいれるとかく人をのから 和田寺光察行派和南右 遠边仰瞻国宅員

すらしなくのらればするのていればゆきかっとする 神やななりるなかといろうちいあれいかと のかけているかるまとうい

お里のしていいとかれるしのう 同づるのとなったい 不鳴を金佐年氏杯吟

爆竹声中部節 をりての気がつるし 熱わとれないたのはつと 流路松散吟四的 いを以写らて東ー ゆんり 门和氟三 将共強雄 第一林今古 であてる王あ はくえーーやういてかれたっち 天神之言像 題象基 春 H 一句ノるかけ 日點比 青皇得暖發朱唇 遺像循存天滿宫 石陽波積之境內田公水月 **黎明高德及無病** 船角数西東 伸心一 敬春 #田之色待沒 **太**級 氏勝重 南鬼

ちなかっと つらしの けんのうくろして 杉の早吸

きらいなかんりにいつまて The state 労は性りーかりいいのいく 金美しけやのるれるれれ ろりとかれるなるはよね 世のり 一着なれれるかりけ しなるふま ノスタいーろりやめろう かくつみなていると うんの思 帮歌即 井政的住 同代京体 水月

甲的好店群 思公射 使之鋒朗功 的とす 勝利依忠起 けと角内田の作う 類をとるままにかったするかくなどり 看色教出 部のめしかるり 一きがあるれて 暑祈折西東 て言なのようちいのある 金粉我 寫 戰功 英智世級行 かル

た

金いろうちょ南がかり 的をなめかってう ると想 というとき 駒以えら さいいわられるめつかと 十四重風 2

的格住

体水

動為するいは、新ち る個井田とふて小ば 犯国 بر

月翼.

11.

かいからり めとかてるのかとかります 羽紅しろ かなのろう なからまっちぬてられた いまなられらくにかきろうりと 一をあれる

**绣水吩吟佳绣水野** 

質いだけいとうしかれ い事いとなのすくいしいろう らるかがするよ (こりなった、表す いてかのうるまするいり うるやのつなてあやうし しずれのちゃんな 多個 仮

ナン

實以內住的水住內

旬 とかは てなめなりし るのちのない

た臣のようを ののいろかちゃん ふちいびとなれ みかるおとむり りゃつとかられる 一路さてな 極可沒 多人

7

任德昭任德昭昨任

乃 實內住水岭

治の言れなみろうるえか 家りて福ふむやさしのか アッちょうかればらた 馬れーかるるのりしいれかが るよのものちくしふかくろとがかられ なんけっていていまかりりのえて かり向びれていてうてかれるら かちゃとてあるはぬのあり H 亚少 喜苦 h3 庆

金をするできて 移や一三種のるれるれて るる中かしいつわいきう めのはきかむてられるの人 つるうやかものとういでれのい あるりのではかりつしつしいい 四多混雜 きに整正する山 舍死 九九 るみ

えらいろうか 山きてるいろのうりゃくろのかり は作らないとうきーナマララ 磨すてとりなるるのがなう られ、秋らうくるちったりと 数かるはやするいてちっ あて居てげやまらうか物 いいとのまとか 桐の女のかりからなわれる ないろしふれるのは你を世とろら 国山之主が神人 やものをするなりない れなり 万ちきりかとうのずろというとて 南独台 れれよす をいてくて 137 ふらろ かれ 万志 老福 积昌 派 松志 M

まのかられたいろやむたかな

山えれるなけれらかとか 称かか かけれわらるよう **愈欲如雞雞狗倉** 七個的沒在日間 ひ扇面之数件 養化すかとい 15 E を包は世やきろの正 ちいれ合 老奈格脩 奉手招 为新 遊遊產還 是學樂 Ŧ 型工

なれているころのおかく んちんのかいれる 以附御小分切 風人 からのないからのう 井田の里了 はつよるかん で言いる以明博 一枝ノむのろ らこるわのれ りくってりないままを いちのるとすり 挨拶 あるの因ふいい しかのちる 400 极 F

共益的心博智質 報力お告はいかか 将也金刚已春色 たとうないにうつとの 帝 图未 秋道質 的情代度藝場美 西アルちくかっておりかりっち するのかるろう となるとれのまで 他日再期這裡禪 应事較量一箇種 飼杯台珠模をこ · 大大公如琴~ ふおり

向なるないるなうころにというかととるのか 東西住城からかるを同る衛の本次奏しみ とありゃくしきころはかりるがって 人性をの通び絶らしいからくなりはすしく 五分的以異域,也的一般好、陈隆心行 君了東古代远我,好以指古民将作德 文書用一城のでしようは内·日北男松老 国権柄、高士賢智やて人欲、れから 皇宝が以後てゆり後御は全以守てため おむらり とうすれたからしくがた人以もよれ 的为人之名在多年的一月双为五丁 ないまといんかっちゃうりをしいかかしい情 了でかきしてる生必らはのはかうけれなつ ---とかかく部はのかしき込む西小社 整傷廣路之路

意見なくり 必然場了 行之事す 當知博愛公 好養ないわられでを感ぬのいろ をもっ、お子がひのいてする。そのな人に りいいりの にはなな産る たのかるかいないののいめの動 するないしいれなてお 強もびもり 動句 山德四甲午 がふを ーあるいと を変変が てと問めたったろ しなか 暮春吉且 一人肌が低い あるで、対ちと ぬ 郵息質品 何られななれる ちていのからはは 見不弱 - FO. X 三花 しるみば

えないるとの理ふわりいいいかり 地震場、強い 素要, 烟之 ふというお話し なるないかるちゃんとのなから 東雲華風鸣自进之 ととなり

害りくらとびようとかとなほうるなりつ てかろのあるとっとないなのわしててのるなない なわられてびれいいれはばのりょうてからま らいといいてか しいなかしらてつきるかられるかっているとう だりちなるないとうなべく生返之のか いのはなだしい金で、サーーは、個一つからな かりるいまとろうからはあかとれの場かるも さなかとしなりとないときしくいる間住をつか かかりはきとはしないかりてまれのほと 勘られからうちるといるにはお してかいかて生、多用かりとかやうくわら ゆういつしながるないろまのえるかれな の盛かれを数しも、これをのゆーかいわ てついびかり五ちと終したときなくしらにま んむなあのははちまるかいち往在社 あるは、性がふと

大の同りしてれる質りみれいるまで 八堂小、スかり油のもやけななしたねとない まくわからかれたいるておいからかられた 金文かしくはんなりがくるちゃつり うちか物でよるないものとうかってる 称のたろいれかくう かるとことかないかいといろいろいろ するとうなかとくってまるのがかとしてほ うとうてい國を持一てるが心小漂向し なののかかるはいるかんなはくるが、質 放婚かれてりまるので人みるい気性の 命ろをあてましてりとを欲りはないろう 次記での後が主サヤーしむとどでは用む う一當るとふとかし你取己以家とすれた 水のおうでなするかくひろとかあせくいい いるかていいかなるでかけるかしできむ 一個のなるがなってくる

あるなっますりないいっといいるかっとうり なるいと程治のろうるといいかかのではい て心的を強攻的過る~小堂小位一名了 し公於競小有牌以合きりの時、まの一個 かまってはかんせかろしませのにあればつかと してはふおて小はというろうな的なかり こなるーできくう~~大はかりないかられる えれつろうなをすかるでをある話という すてはいでいろうしての常同からしも似ない まれてうかはそかりしててのかりしをちないい き中五佛四祭一日之君生なけれり流行 からいちはしゃた信きていくくりかっきいく 一致からからからといまるろう草るか脚以と あくりかいかるながしたいようかしゃいかり フィン、るりりんなかしてきるからい の役目まるを受れてなりても 辛八

-

おういてしむとなりしたれ数なな時、衛盗形は 属いかかと丁いりかくているか 多語がであるくましい、大名なべくらの五形 れいれとのかうちちずれいる四分のかれてれ 性昔といえかをでしますしてないなかよらき なーてくしらのからおくふ或の終次した 痛ななえはししいなうろうににすにない くろ一世の禁む小探」の一般あの自え小いる まかっているとからなるとのいろとれて言うない ないかるうろうんといしてうちちなまりはか 天をながあるいったいいとかしらなりしろの とするいははのかってさわらいかし盗みなか いいらしなるなわからびれとうなんつさるの ろかりていたのとないからいろかとうろいろう 紀なられくならはみかんらしちょか しましむはそのなるななななのわれたとう

海

朱冷 交りがひけいしからの日かろもりまたいる ちくりくらはまやくかってかの国次第うち 中二毛とおしているりょうのなきふかくん 後のはまいれますうなのかい面かりふ生い いてするの様がなりがあるかろし回れ 乃方想以降か一知語ら房官成を作る 務、信替かする一路のいたの見ふれたは ううなりるあっくなるよしとかくたいで 続き入物のを以うらの子板の形、以的は 場があいとううしはれまりしのかえと ていたろかのくれな通りのわれ数日以下外正 りかっ字的川之味い我はあってあるり しるちとかたるちといないいろうしか学 そあたるかいす国かりていなのに ~了一下に好」作、七箇、自讚致 しっていかっているけんいる

園小九名八直小宫門小行, 過若人珍多以容 天りなりるればるいかかくてるゆっちつくあいな たかとるはのりは五次でくっしくりてい 八島的「高京瑞一之東山ルーてを以推、京 将にい何み島。色五度小一两十度s十角 異心以可認不了——利以必以此思以 いくかってするとうあるり、おるまりは 本的な書人物と言を数年泉殿で言る小 かっているるなはらしゃんなみはんれだ かとといいいま うているくり 時い必吾いわりとい語 和語阿房宮城 しかりおけるすいなゆーち語る けのがみでんといいまからくろびむりしろけ ていていのな脚でへせ、使ううつか場 んけなる方ちっ標準かってい

度となのかろびわられなりのころかれな 多 をすかしていないいっちがりそのろってため な以や家を文をしるの大はい間でして政治 かてむくのわねっくちのさかけているよりかってい ぬぬいり湯小雄てきるかく·それは必良い 109うちりのろうして数何かと を赤かれりふると そうなものそのちろけくいりはなるくる をもれずくのし ほってされらい ひかいるそのか くられぬの一曲以野のりのあるるかなる えるからのみんとれいを数のるへ む頂いはみむる内野かけっとあれい 噪人 くしていあってる てりといっていかけるかる ~高低色小婦で豆女 二ろの宝いるむいまない 一小花の山子唇后的 一方今以より NY NOO

理られてしているののれからしなる 月の宝むの前野かちればか情ら也思と本 雷度のな後改えい相称のそうとのなんと てき方の福を込めたいるなれのなけかりし 小間大阪にいなありつくにしたからさん 続くるのといろいりのかれのせた。核心的な ひしかとほっくらありかせかのまでかった まおるなのくないとうかとないのは藤し 了。君子川のは、小中国、自然上小孩 ないいけるからのよう人いて教ののをを てれのいろころなかろいありてか

物のからなくひらすりたくろなるのはきてとい ぬかれのちょううにはいめししていい やゆんのゆきくせくししょうりょうないか いりしてないのありしまったもじらいの際 とうけるいといくれてあるってくるを

物がななのとかりとうろくはころとう 聖人がするからいのるなないかあったるな をかしていいはくいいるるくのんとうなる せいてとはなからするめてくりはりなら かられい具板の模様なんかぞかわといい かふぞう まっまかせたのくけいりなしとこと そのはわられいけっやけーあからるからんなか ラン 会うる場かのはないていきから付いる しるならのなほしつきなくとうちょうかい ちとくなくとはかまっまらう あなりと 以情を何のなるのあれれいしてのなる いんないろうなあわかとはよいして国とうかい しまなはっちょうとないられてい い金をから うしつうくとっとなるへんなん 人でのとろうなくしまれ しまいちつばる 公十七

くろがかりしいつるからなっていてる家 んすのうしゃしいての方方はしてしま れるころあんななーろりしゅうできく ていたししくとける あるするする一人は本もからしいからな せいりずてあるのるいかりからしろいる のまんりしてはくするな気のれる たえにのなくなりやくなりかいかかれ ろいてる姓山丁氏人姓女方序的智 とうしなすししいりという時有の方限るする 人がしていているしてないからっとがよ いろいてのるとしをからしいてのるとしない かなれるのの~~かれずしたの立かな びとった、記人ととえま神のけてよるしいか 一いないれるのはこねのるがなかれ ししてといいいよみかられてくなけ

和語阿馬宮発 正德四年本春良日

武华 隈? 出限のおこまでお人いくととりてみても之人 をしっておきっまべいましてるともでくれまらはのか 襲 時鳥都人コトナン草 春、夜月雪 走軍 十智塩電 安達原 松 红染 床莲

